

2012. 6. 2

名ホールの響き
第1回

ウィーン・ムジークフェラインザール
で聴く世界のオーケストラ

プログラム

私たちがコンサートに通う時、曲目、演奏家を目的としている事はもちろんですが、コンサートホールに於ける響きの空間に酔いしれるのも楽しみのひとつです。1975年名指揮者クーベリックがバイエルン放送交響楽団を率いて来日した折の逸話があります。来日初日の予定は日比谷公会堂でマーラーの交響曲第9番が演奏されるはずでした。しかしクーベリックは、この曲の演奏にこの会場はふさわしくない、という理由で急遽最終日に東京文化会館で演奏されることになったのです。それは日本の聴衆に最高の物を聴かせたい、というクーベリックの願いがあったからです。それほど演奏者にとっても聴衆にとってもコンサートホールは重要な場所です。今日は世界の有名なホールで演奏された録音を聴きながら、その響きの妙を楽しんでいただくシリーズの第1回としてウィーンのムジークフェラインザール（ウィーン楽友協会大ホール）を取り上げます。

ウィーン・ムジークフェラインザールは、1870年に建設され、絢爛豪華な室内装飾と素晴らしい音響によって“黄金のホール”とも呼ばれています。ウィーン・フィルの本拠地として余りにも有名ですが、ウィーン・フィル以外にも毎年多くのオーケストラが来演しています。ベルリン・フィルや我らのN響等が、この黄金のホールでどんな響きを奏でてくれるのか興味は尽きません。ウィーン・フィルが本物の音を聴かせてくれるこのホールでの演奏と合わせてお楽しみください。

ジョアキーノ・ロッシニ(1792~1868):
歌劇“アルジェのイタリア女”序曲

アンドレ・プレヴィン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(1992.6.14 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

セルゲイ・ラフマニノフ(1873~1943):
ヴォカリーズ

ヤコフ・クライツベルク指揮ボーンマス交響楽団
(1999.3.15 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

エドワード・エルガー(1857~1934):
エニクマ変奏曲op.36 ~ ニムロッド

ユーリ・テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団
(1999.2.23 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827):
ヴァイオリン協奏曲ニ長調op.61 ~ 第1楽章、第3楽章から

アンネ・ゾフィー・ムター(ヴァイオリン)
小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(2008.1.28 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

*** 休憩 ***

レオシュ・ヤナーチェク(1854~1928):
タラス・ブーリバ

ヴァーツラフ・ノイマン指揮オーストリア放送交響楽団(ウィーン放送交響楽団)
(1991.3.8. ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

エドヴァルド・グリーグ(1843~1907):

劇音楽“パール・ギュント” ~ ソルヴェークの歌/ソルヴェークの子守唄

バーバラ・ボニー(ソプラノ)
マリス・ヤンソンス指揮オスロ・フィルハーモニー管弦楽団
(2000.4.13 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

モーリス・ラヴェル(1875~1937):
舞踊音楽“ダフニスとクロエ”第2組曲

ウラディーミル・アシクケナージ指揮NHK交響楽団
(2005.10.13 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827):
劇音楽“エクモント”序曲op.84

クリスティアン・ティーレマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(2009.11.22 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)